



1949年、新潟県柏崎市生まれ。72年、東京女子大文理学部卒業後、都衛生局に約8年間勤務。退職後はフリーライター、市民団体代表などを務める。八王子市は都心から西に約40*、21大学を抱える学園都市。人口は約52万7000人。

顔

に属さない「一人会派」。代表質問や議案提出はできないものの「私にとっては会派に属さない方がやりやすい。政策で一致できればその政策には賛成するわけですから」と割り切っている。

市の施策が市民の知らないうちに決まってしまうのはおかしいとして、市内の喫茶店などで「カフェ・ミーティング」を開く。地域問題などをテーマに、分かりやすく市政を説明。「情報公開というか、市がやっていることを丁寧に説明するのが議員の役割だ」と語る。議員バッジの代わりに大学一

普通の市民感覚貫く

う。

約三十年前に東京都杉並区から八王子市に移り住み、一時福岡市に移転したが、再開発され八王子市内のニュータウンにた八王子市内のニュータウンに一九八四年、戻ってきた。「い

わゆる新住民という言い方は嫌いなんですが、八王子は新住民

と昔から住んでいる人との溝が大きい。その懸け橋になればいいと、出馬を決意した。実際、自分が住む約二千五百世帯がひしめくニュータウンには、これまで議員が一人もいなかったという。

(文・本田英寛、写真・林泰史)

八王子市の六月議会で初めて一般質問をする前に、議長に名前だけでなく議員番号も名乗ることに大きな抵抗を感じた。「なぜ自分のことを番号で呼ぶんだらう。すごく変じゃないですか」と振り返る。

女性新人議員が走る

東京・八王子市議

陣内 泰子(53)

議会規則にはどうした決まりはなく、あくまで「慣習」として行われているだけのことだった。「普通の市民の感覚から見るとおかしいことが多い」。

議員生活は戸惑いの連続とい

PERSONAL PEOPLE PERSONAL PEOPLE